

たばこ用農薬の 使用基準

【2024年作版】

— 翌年作契約前まで適用 —

【目 次】

農薬の安全使用について	P	2
I たばこ用農薬使用上の留意事項	P	3
II 殺菌剤	P	4
III 殺虫剤	P	14
IV 土壌くん蒸剤・殺線虫剤	P	22
V 除草剤	P	30
VI 植物成長調整剤	P	34
・接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法	P	36
VII 使用を制限する農薬	P	40
VIII 農薬の毒性・水産動植物への影響	P	41
IX 指定剤と対象剤の使用間隔	P	42

【付 録】

1. 病害虫・雑草適用農薬一覧表

1) 殺菌剤	P	43
2) 殺虫剤	P	44
3) 土壌くん蒸剤・殺線虫剤	P	46
4) 除草剤	P	46

2. 索引

1) 種類別	P	47
2) 名称別	P	48

農薬の安全使用について

農薬使用にあたっては特に、以下の点に留意する。

※「よくわかる！たばこ用農薬ガイド」を十分活用すること。

1. 使用に先立って

- 1) 前年作までの病害虫の発生状況を踏まえ、当年作における防除計画を策定する。
 - i) 農薬の適用、RACコード、毒性、水産動植物への影響、剤型等を確認の上、農薬を選択する。
 - ii) 選択した農薬について使用基準を確認し、使用量を見込む。
※RACコードとは、農薬の有効成分の作用機構ごとに付されるコード（数字、アルファベット）で、P4以降の各農薬の名称下部<>内に記載（RACコード設定のないものについては「-」と記載）。
※ローテーション散布を実施する場合は、異なるRACコードの農薬を選択する。
- 2) 計画に基づき、必要量のみ農薬を購入する。
（有効期限切れの農薬は効果が落ちるため、買い置きは避ける）
- 3) 農薬ラベルの「効果・薬害等の注意」、「安全使用上の注意」を含め、記載事項をよく読む。
- 4) 農薬ラベルの記載内容にしたがって、もっとも適した保護衣・保護具を準備する。
- 5) 事前に体調を整えて、良好な状態で作業にのぞむ。

2. 防除・管理作業に当たって

- 1) 農薬の使用時および薬液の調製時には、農薬ラベルに従って保護衣・保護具を着用する。
- 2) 定められた濃度・使用量を守り、1日に散布可能な量を調製し、使い切る。
- 3) 農薬の使用によって人畜、水産動植物、周辺環境への危被害を生じさせないこと。
- 4) 風の影響に注意し、農薬の飛散等がないよう十分注意する。
- 5) 農薬使用の際に、万一薬剤が眼に入ったり、皮膚に付着した場合は、直ちに水洗いすること。異常を感じた場合は、医療機関で受診すること。

3. 散布が終わってから

- 1) 使用済みの農薬容器は、産業廃棄物処理業者へ処理を委託するか、自治体等で定められた方法があればそれに従い処理すること。
- 2) 作業が終わったら、ほ地ごとに使用した農薬について防除日誌に必ず記録する。
- 3) 作業後は、体をよく洗い、洗眼およびうがいもすること。身体に異常を感じる場合は、直ちに医療機関で受診すること。

4. 保管と管理

- 1) 保管場所は、直接日光の当たらない冷涼・乾燥した場所に設置し、必ずカギをかける。
- 2) 特別に注意を要する農薬には、その保管方法が農薬ラベルに記載されているので、記載内容に従い適切に保管する。
- 3) 使用時においても目の届く範囲内に管理し、紛失・盗難等のない様に留意する。

I たばこ用農薬使用上の留意事項

下記の留意事項を遵守の上、適正に農薬を使用すること。

1. 農薬使用基準の遵守

- 1) たばこ耕作における農薬は、病虫害防除、除草、わき芽抑制の目的にのみ使用すること。
農薬を使用する場合は、本使用基準に記載する農薬のみを使用すること。
- 2) 本使用基準の適用は翌年作契約前までとする。
なお、本使用基準の配付後、翌年作契約前までに変更が生じた場合は、変更後の内容を適用すること。
- 3) 本使用基準に記載された農薬の使用法（適用病虫害、希釈倍数、使用量、使用時期、処理方法、総使用回数等）を遵守しなければならない。
特に、使用時期については、収穫までの日数を遵守すること。
- 4) クロルピクリン剤等の土壌くん蒸剤をはじめ、農薬を使用する際には、人畜、水産動植物、周辺環境への影響を十分考慮し、留意事項に記載の内容（農薬ラベル記載内容）を適切に実施すること。

2. 農薬の使用間隔

- 1) 農薬（薬剤、剤型、使用目的を問わず）を散布する場合の使用間隔は、7日以上とする。
※ただし、接触型わき芽抑制剤および除草剤については例外とする。
※また、別途定める指定剤と対象剤の使用間隔はP42『指定剤と対象剤の使用間隔』のとおりとする。

3. 農薬の使用回数

- 1) 同一病虫害に対する農薬の使用回数は、特定の製剤を除き、2回以内とする。
- 2) わき芽抑制剤の総使用回数は、それぞれの農薬毎・使用方法毎に定められた使用回数以内とする。
※ただし、具体的使用方法については、P36～39『接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法』による。
- 3) 除草を目的として使用する農薬の総使用回数は、2回以内とする。

4. 農薬の使用量

- 1) 本畑期における10a当たり使用量については、P4以降の農薬毎の使用量を上限とし、たばこの生育状況にあわせ、「よくわかる！たばこ用農薬ガイド」P14を参考に量を調節すること。
- 2) ほ地の一部に処理する場合は、処理する面積に応じた使用量を算出して使用すること。

5. 農薬の毒性・水産動植物への影響

- 1) 農薬はその有効成分の毒性により分類され、また、製剤ごとに、水産動植物への影響に係る使用上の注意事項が定められている。農薬は危害防止の規制を受けるので、農薬ラベル及びP41の『農薬の毒性・水産動植物への影響』を十分確認し、危被害を生じさせないこと。

6. その他

- 1) 農薬の現地混用はしてはならない。
- 2) 展着剤を使用してはならない。
- 3) 「たばこ用農薬の使用基準」における「処理方法」とは、農薬登録上の表記（農薬ラベルの記載事項）における「使用方法」のことを示す。

II 殺菌剤

分類	種類	名称 <FRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害	希釈倍数	10a当たり 使用量
ベンゾイミダゾール剤	チオファネート メチル剤	トップジンM <1>	水和剤 (70%)	1090	g	腰折病	1,000 ~ 2,000 ^倍	L/m ² 2
						黒根病	1,000 ^倍	L/m ² 2
	ベノミル剤	ベンレート <1>	水和剤 (50%)	1100	g	腰折病	2,000 ^倍	L/m ² 1 ~ 2
						黒根病	1,000 ~ 2,000 ^倍	L/m ² 2 ~ 3
ジカルボキシイミド剤	イプロジオン剤	ロブラール <2>	水和剤 (50%)	1120	g	菌核病	1,500 ~ 2,000 ^倍	mL/株 200
	プロシモン剤	スミレックス <2>	水和剤 (50%)	1130	g	菌核病	1,000 ~ 2,000 ^倍	mL/株 200
EBI剤	トリフルミゾール剤	トリフミン <3>	水和剤 (30%)	1150	g	うどんこ病	5,000 ^倍	L 150 ~ 180
	フェナリモル剤	ルビゲン <3>	水和剤 (12%)	1160	g	うどんこ病	10,000 ~ 15,000 ^倍	L 100 ~ 180
	ミクロブタニル剤	ラリー <3>	水和剤 (10%)	1170	g	うどんこ病	6,000 ^倍	L 100 ~ 180
	テトラコナゾール剤	サルバトーレME <3>	液剤 (11.6%)	1180	mL	うどんこ病	3,000 ~ 4,000 ^倍	L 100 ~ 180
酸アミド剤	メプロニル剤	バシタック <7>	水和剤 (75%)	1320	g	腰折病	1,000 ~ 2,000 ^倍	L/m ² 3
その他殺菌剤	パンチオピラド剤	アフエット <7>	フロアブル (20%)	1470	mL	菌核病	2,000 ^倍	L 100 ~ 180
ストロビリン剤	クレソキシムメチル 剤	ストロビー <11>	フロアブル (44.2%)	1185	mL	赤星病	3,000 ^倍	L 100 ~ 180

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法					毒性	水産動植物影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用回数 回以内	本剤の使用回数 回以内	下記成分を含む農薬の総使用回数 回以内			
苗床期	散布	2	2	チオファネートメチル	2 普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・親床での処理は、は種後10日目から1週間間隔で、子床は仮植後7日目から1週間間隔で、薬剤を散布する。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・蚕に対し影響があるので注意すること。
親床期(は種期)	散布	2	2	ヘノミル	2 普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・親床期は薬害が生じるおそれがあるので、使用方法を守り、発芽期には散布しないこと。 ・施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かないこと。
子床期(仮植後)							
大土寄せ時まで	株元灌注	1	1	イプロジオン	1 普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・本剤所定量に少量の水を加えて糊状にねった後所定量の水を加え十分かき混ぜて散布液を調製する。 ・植付直後は、薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。 ・蚕に対し影響があるので注意すること。 ・薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。
大土寄せ時まで	株元灌注	1	1	プロシミドン	1 普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・植付直後は、薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。 ・薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	トリフルミゾール	2 普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・希釈倍数が他の農薬と大幅に異なるので十分注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	フェナリモル	2 普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・希釈倍数が他の農薬と大幅に異なるので十分注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	マイクロブタニル	2 普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・希釈倍数が他の農薬と大幅に異なるので十分注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	テトラコナゾール	2 普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。
苗床期	散布	2	2	メプロニル	2 普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので注意すること。 ・蚕に対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	ペンチオピラド	2 普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・薬剤耐性菌の出現を防ぐため、過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
収穫5日前まで	茎葉散布	2	2	クレソキシムメチル	2 普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対して弱い刺激性があるので、注意すること。 ・蚕に対して影響を及ぼすおそれがあるので、注意すること。

II 殺菌剤

分類	種類	名称 <FRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法						
						適用病害	希釈倍数	10a当たり 使用量				
ストロビリン 剤	アゾキシストロピン 剤	アミスター20 <11>	フロアブル (20%)	1181	mL	赤星病	2,000 ~ 3,000 ^倍	100 ~ 180 ^L				
						菌核病	2,000 ^倍					
酸アミド 剤・ストロビリン 剤	アゾキシストロピン・ メタラキシルM剤	ユニフォーム <11・4>	粒剤 [アゾキシ ストロピン 2% メタラキシルM 1%]	1315	kg	疫病	—	6 ~ 9 ^{kg}				
								6 ^{kg}				
抗生物質 剤	ポリオキシシン 剤	ポリオキシシンAL <19>	水和剤 [ポリオキシシン Bとして10%]	1190	g	赤星病 灰色かび病	500 ~ 1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L				
							水溶剤 [ポリオキシシン Bとして50%]	1200	g	赤星病 うどんこ病 菌核病	2,500 ~ 5,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
										灰色かび病	2,500 ^倍	100 ~ 180 ^L
スルホンアミド 剤	アミスルプロム 剤	オラクル <21>	顆粒水和剤 (50%)	1400	g	疫病	2,000 ^倍	100 ~ 200 ^{mL/株}				
				1405				200 ~ 400 ^L				
抗生物質殺菌剤・ 無機殺菌剤	カスガマイシン・ 銅水和剤	カスミンボルドー <24・M1>	水和剤 [カスガマイシン- 塩酸塩 5.7% (カスガマイシン として 5.0%) 塩基性塩化銅 75.6% (銅として 45.0%)]	1410	g	疫病	1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L				
		カッパーシン <24・M1>		1420								
		ホープスター <24・M1>		1425								

注1) 基準書中の「使用回数」……………一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。

注2) 基準書中の「本剤の使用回数」……………適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。

注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」…適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用方法					毒性	水産 動植物 影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
収穫10日前まで	茎葉散布	2 回以内	2 回以内	アゾキシストロビン 2 回以内	普通物	I	・ 蚕に対し影響があるので注意すること。
植付前	作条土壌 混和	1	1	アゾキシストロビン 2	普通物	II	・ 眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。
大土寄期	株元散布			メタラキシル (メタラキシルMを含む) 1			
収穫5日前まで	茎葉散布	2	2	ポリオキシシン 2	普通物	I	・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。
収穫5日前まで	茎葉散布	2	2		普通物	I	
収穫10日前まで	株元灌注	2	2	アミスルプロム 2	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眼に対して刺激性があるので注意すること。 ・ 予防効果主体の剤なので、発病前または発病初期に処理すること。 ・ 薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。 ・ 土壌表面散布する際は、ノズルに飛散防止用のカバーを装着し、薬剤がたばこに飛散しないようにすること。
収穫10日前まで	土壌表面 散布						
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	カスガマイシン 2 塩基性塩化銅 2	普通物	II	・ 眼に対して強い刺激性があるので注意すること。
							P41参照

II 殺菌剤

分類	種類	名称 <FRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害	希釈倍数	10a当たり 使用量
抗生物質剤	ストレプトマイシン 剤	ヒトマイシンS <25>	液剤 (5%)	1210	mL	野火病 立枯病 空洞病	250 ~ 500 ^倍	100 ~ 180 ^L
		ストマイ <25>	液剤 (20%)	1230	mL	野火病	200 ~ 300 ^倍	100 ~ 180 ^L
		アグレプト <25>	水和剤 (20%)	1240	g	立枯病	1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
		マイシン <25>		1250	g			
有機塩素剤	シモキサニル・ TPN剤	ブリザード <27・M5>	水和剤 [シモキサニル 24% TPN 60%]	1051	g	うどんこ病 疫病	1,200 ^倍	100 ~ 180 ^L
その他殺菌剤	シモキサニル・ ベンチアパリカルブ イソプロピル剤	ベトファイター <27・40>	顆粒水和剤 [シモキサニル24% ベンチアパリカルブ イソプロピル10%]	1052	g	疫病	2,000 ~ 3,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
	プロバモカルブ 塩酸塩剤	プレビクールN <28>	液剤 (64%)	1330	mL	疫病 舞病	400 ~ 600 ^倍	L/m ² 5
ピリジナミン 剤	フルアジナム剤	フロンサイド <29>	水和剤 (50%)	1500	g	菌核病	1,000 ^倍	mL/株 100 ~ 200
その他殺菌剤	オキシリニック酸剤	スターナ <31>	水和剤 (20%)	1350	g	空洞病	1,000 ~ 1,500 ^倍	100 ~ 180 ^L
抗生物質剤・その他殺菌剤	オキシリニック酸・ ストレプトマイシン 剤	ナイスカップル <31・25>	水和剤 [オキシリニック酸 10% ストレプト マイシン 10%]	1355	g	空洞病 立枯病	1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用方法					毒性	水産動植物影響	留意事項	
使用時期	処理方法	使用回数	本剤の使用回数	下記成分を含む農薬の総使用回数				
収穫7日前まで	茎葉散布	2	2	回以内	普通物	I	・角斑病に対しては、発生初期に時期を逸さないように散布すること。	
収穫3日前まで	茎葉散布	2	2	ストレプトマイシン	2	普通物	I	・高温時に薬害として黄白色の斑点を生じることがあるので注意すること。
収穫3日前まで	茎葉散布	2	2			普通物	I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・高温多湿時には薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがある。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	シモキサニル TPN	2 2	普通物	II	・眼に対して強い刺激性、皮膚に対して刺激性があるので取扱いに注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・蚕に対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	シモキサニル ベンチアバリカルブ インプロピル	2 2	普通物	I	・眼に対して強い刺激性、皮膚に対して刺激性があるので取扱いに注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
苗床期 〔植付10日前から 植付前日まで〕	散布	2	2	プロバモカルブ	2	普通物	I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・本剤は酸性溶液なので、金属の器具、容器を使用した場合は、使用後よく水洗すること。 ・薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。
大土寄時まで	株元灌注	〔苗床期2 または 本畑期1〕	〔苗床期2 または 本畑期1〕	〔苗床期2 または 本畑期1〕	2			
大土寄期まで	株元灌注	1	1	フルアジナム	1	普通物	III	・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・保護効果主体の剤であり、病原菌に感染した後の処理では効果が不十分な場合があるため注意すること。 ・薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。 ・蚕に対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	オキシリニック酸	2	普通物	I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	オキシリニック酸 ストレプトマイシン	2 2	普通物	I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・高温多湿時には薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがある。 ・発生初期に時期を逸さないように散布すること。

II 殺菌剤

分類	種類	名称 <FRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害	希釈倍数	10a当たり 使用量
土壌殺菌剤	ヒドロキシイソキサゾール剤	タチガレン <32>	液剤 (30%)	1290	mL	舞病	1,000 ^倍	mL/株 100
酸アミド剤	マンジプロパミド剤	レーバス <40>	フロアブル (23.3%)	1430	mL	疫病	1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
抗生物質剤	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン剤	アグリマイシン-100 <41・25>	水和剤 [オキシテトラサイクリン 1.5% ストレプトマイシン 15%]	1270	g	野火病 角斑病	1,500 ^倍	100 ~ 180 ^L
						空胞病	1,000 ~ 1,500 ^倍	
						疫病	1,000 ^倍	
その他殺菌剤	アメトクトラジン・ジメトモルフ水和剤	ザンプロDM <45・40>	フロアブル [アメトクトラジン 27% ジメトモルフ 20.3%]	1460	mL	疫病	1,000 ~ 1,500 ^倍	100 ~ 180 ^L
有機銅剤	DBEDC剤	サンヨール <M1>	乳剤 (20%)	1010	mL	うどんこ病	500 ^倍	100 ~ 180 ^L
有機塩素剤	TPN剤	ダコニール1000 <M5>	水和剤 (40%)	1050	mL	うどんこ病	700 ~ 1,000 ^倍	100 ~ 150 ^L
その他殺菌剤	イミノクタジンアルベシル酸塩剤	ベルコート <M7>	水和剤 (40%)	1380	g	赤星病 うどんこ病 灰色かび病	1,000 ~ 2,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
無機殺菌剤	炭酸水素カリウム剤	カリグリーン <NC>	水溶剤 (80%)	1370	g	うどんこ病	800 ~ 1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
有機リン剤	ホセチル剤	アリエッティ <P7>	水和剤 (80%)	1360	g	疫病	400 ~ 800 ^倍	mL/株 200
						舞病	400 ~ 800 ^倍	mL/株 100

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法					毒性	水産 動植物 影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
植付時および 大土寄時まで	株元灌注	2 回以内	2 回以内	2 回以内 ヒドロキシイソ キサゾール	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・初期生育が抑制されるおそれがあるので、濃度や処理量を遵守すること。 ・薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	マンジプロパミド	普通物	I	
収穫3日前まで	茎葉散布	2	2	オキシテトラ サイクリン 2 ストレプトマイシン	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿時には薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがある。 ・角斑病に対しては、発生初期に時期を逸しないように散布すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	アメトクトラジン ジメトモルフ	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚に対して弱い刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・薬剤耐性菌の出現を防ぐため、過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
収穫20日前まで	茎葉散布	2	2	DBEDC	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・高温時の散布は、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	TPN	普通物	III P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	イミノクタジン アルベシル酸塩	普通物	II P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・蚕に対し影響があるので注意すること。
収穫3日前まで	茎葉散布	2	2	炭酸水素カリウム	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・初発時期に散布すること。 ※殺虫剤(茎葉散布剤)との使用間隔についてはP42を参照すること。
大土寄時まで 植付時	株元灌注	2	2	ホセチル	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・銅を含む農薬との連用は薬害を生じるおそれがあるので注意すること。 ・薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。

II 殺菌剤

分類	種類	名称 <FRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害	希釈倍数	10a当たり 使用量
生物 農薬	トリコデルマ剤	エコホープDJ <BM2>	水和剤 [トリコデルマ アトロピリデ (1g中孢子1億 以上)]	1390	g	白絹病	500 ^倍	mL/株 200
	バチルス ズブチリス剤	エコショット <BM2>	水和剤 [バチルス ズブチ リス生芽胞 (1g中500億 以上)]	1440	g	灰色かび病	1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
	バチルス アミロ リクエファシエンス剤	インプレッションクリア <BM2>	水和剤 [バチルス アミロ リクエファシエンス 生芽胞 (1g中50億 以上)]	1450	g	うどんこ病	500 ~ 1,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
抗ウ イルス 剤	シイタケ菌糸体抽出 物	レンテミン <->	水溶剤 (90%)	1280	g	タバコモザイク病	500 ~ 1,000 ^倍	L/3.3m ² 10

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。

注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。

注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法					毒性	水産 動植物 影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
収穫前日まで	株元灌注	2 回以内	2 回以内	トリコデルマ アトロピリデ 2 回以内	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ 本剤の有効成分は生菌のため、入手後できるだけ早く使用すること。また、開封後はすべて使い切ること。 ・ 薬剤を株元灌注する際は、間欠使用が可能な灌注機能を有するノズルを使用すること。幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、1本ずつ株元へ確実に灌注すること。 ・ 薬剤が茎葉にかからないよう厳重に注意すること。
収穫3日前まで	茎葉散布	2	2	バチルス ズブチリス 2	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ 本剤の有効成分は生菌のため、散布液調整後はできるだけ速やかに散布すること。 ・ 開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切ること。 ・ ※殺虫剤(茎葉散布剤)との使用間隔についてはP42を参照すること。
収穫3日前まで	茎葉散布	2	2	バチルス アミロ リクエファシエンス 2	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ 本剤の有効成分は生菌のため、散布液調整後はできるだけ速やかに散布すること。 ・ 開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切ること。 ・ 予防効果主体の剤なので、発病前または発病初期に処理すること。
苗床期 (植付直前)	散 布	1	1	シイタケ菌糸体抽 出物 1	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス感染防止のための剤であり、感染後のウイルスには効果がないので注意すること。 ・ 処理した薬液が乾いた後に移植すること。また、処理後、移植までの間に散水・灌水を行わないこと。

Ⅲ 殺虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用害虫	希釈倍数	10a当たり 使用量
カー バメ ート 剤	NAC剤	デナポン5%ベイト <1A>	粒剤 (5%)	2330	kg	ネキリムシ類	—	kg 3 ~ 6
	ベンフラカルブ剤	オンコル <1A>	粒剤 (5%)	2360	kg	アブラムシ類	—	kg 6
						スリップス類	—	kg 3 ~ 6
カルボスルファン剤	ガゼット <1A>	粒剤 (3%)	2370	kg	アブラムシ類	—	kg 6	
有機 リン 剤	ダイアジノン剤	ダイアジノン <1B>	粒剤 (3%)	2050	kg	コガネムシ類幼虫 ネキリムシ類 ハリガネムシ	—	kg 6 ~ 9
	PAP剤	エルサン <1B>	粉剤 (2%)	2130	kg	ハスモンヨトウ タバコアオムシ	—	kg 3 ~ 5
	マラソン剤	マラソン <1B>	乳剤 (50%)	2140	mL	アブラムシ類	1,000 ^倍	50 ~ 100 ^L
						ヤサイゾウムシ	1,000 ^倍	25 ~ 50 ^L
	アセフェート剤	オルトラン <1B>	粒剤 (5%)	2190	kg	ネキリムシ類 ヨトウムシ アブラムシ類 スリップス類 ジャガイモガ ヤサイゾウムシ	—	kg 3 ~ 6
						アブラムシ類	—	
		アセフェート剤	水和剤 (50%)	2200	g	タバコアオムシ ヨトウムシ アブラムシ類	1,500 ~ 2,500 ^倍	L 25 ~ 180
						ジャガイモガ (若~中令幼虫)	1,500 ~ 2,000 ^倍	
						ヤサイゾウムシ	1,000 ~ 2,000 ^倍	L/m ² 1
	ジェイエース <1B>	粒剤 (5%)	2210	kg	ヨトウムシ アブラムシ類	—	kg 3 ~ 6	
水溶剤 (50%)					2220	g	ヨトウムシ タバコアオムシ アブラムシ類	1,500 ~ 2,500 ^倍

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用方法					毒性	水産動植物影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用回数	本剤の使用回数	下記成分を含む農薬の総使用回数			
植付時	株元散布	1	1	NAC	2	普通物 II P41参照	・心葉に付着すると葉害を生じるおそれがあるので注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
植付前	作条土壌混和	1	1	ベンフラカルブ	1	普通物 II P41参照	・過剰に使用すると葉害を生じるおそれがあるので使用量・回数を厳守する。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
植付前	作条土壌混和	1	1	カルボスルフアン	1	劇物 II P41参照	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
植付前	土壌混和	1	1	ダイアジノン	1	普通物 II P41参照	・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・葉害のおそれがあるので、植付前に土壌全面または作条に処理し土壌とよく混和すること。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
収穫20日前まで	散布	2	2	PAP	2	普通物 II P41参照	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい人は注意すること。 ・ハスモンヨトウの防除は、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に散布すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	マラソン	2	普通物 II P41参照	・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
植付前	作条土壌混和	1	1	アセフェート	2	普通物 I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・植付前に作条処理し、土壌とよく混和する。 ・直接、薬剤が葉に触れたり、使用量が多いと葉害を生じるおそれがあるので注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
本畑初期	株元散布						
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	アセフェート [苗床期1 本畑期1 または 本畑期2]	2	普通物 I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
苗床期	散布	1	1				
植付前	作条土壌混和	1	1			普通物 I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・植付前に作条処理し、土壌とよく混和する。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2			普通物 I	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。

Ⅲ 殺虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農薬 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用害虫	希釈倍数	10a当たり 使用量
有機リン剤	MEP剤	スミチオン <1B>	乳剤 (50%)	2700	mL	ヨトウムシ	1,000 ^倍	25 ~ 180 ^L
	ジメトエート・ フェンバレレート剤	ベジホン <1B・3A>	乳剤 [ジメトエート 15% フェンバレレート 10%]	2290	mL	タバコアオムシ ヨトウムシ アブラムシ類	3,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
合成ピレスロイド剤	シハロトリン剤	サイハロン <3A>	水和剤 (5%)	2390	g	タバコアオムシ ヨトウムシ	2,000 ~ 3,000 ^倍	120 ~ 150 ^L
	エトフェン プロックス剤	トレボン <3A>	乳剤 (20%)	2410	mL	タバコアオムシ ヨトウムシ	2,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
						アブラムシ類 タバコノミハムシ	1,000 ~ 2,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
	シベルメトリン剤	アグロスリン <3A>	乳剤 (6%)	2420	mL	タバコアオムシ ヨトウムシ	2,000 ~ 3,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
						アブラムシ類 オンシツコナジラミ	2,000 ^倍	25 ~ 180 ^L
	ビフェントリン剤	テルスター <3A>	水和剤 (2%)	2430	g	ヨトウムシ	1,500 ^倍	100 ~ 180 ^L
アブラムシ類 オンシツコナジラミ						1,500 ^倍	25 ~ 180 ^L	
	テルスタージェット <3A>	くん煙剤 (5%)	2435	g	タバコシバンムシ チャマダラメイガ	—	80~160m ³ 当たり 20g 192~384m ³ 当たり 48g	

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法					毒性	水産 動植物 影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
収穫20日前まで	茎葉散布	1 回以内	1 回以内	MEP 回以内	1 普通物	Ⅱ	・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	ジメトエート 2 フェンバレレート 2	2 劇物	Ⅲ	・眼に対し強い刺激性、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・のど、鼻などを刺激する場合、また、かゆみを生じる場合があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。 ・蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	シハロトリン 2	2 劇物	Ⅲ	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・のど、鼻、皮膚などを刺激する場合、また、かゆみを生じる場合があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	エトフェンプロックス 2	2 普通物	Ⅱ	・眼に対し強い刺激性、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
発生初期 ただし、収穫10 日前まで	茎葉散布	2	2	シペルメトリン 2	2 劇物	Ⅲ	・眼に対し強い刺激性、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・のど、鼻、皮膚などを刺激する場合、また、かゆみを生じる場合があるので注意すること。 ・蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	ピフェントリン 2	2 普通物	Ⅱ	・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
たばこを貯蔵庫に 保管する10日前 まで	たばこ貯蔵 庫のくん煙	1	1	〔本剤の使用はピフェン トリンの総使用回数に 含めない〕	1 劇物	Ⅱ	・貯蔵庫を密閉してから使用する。 ・火災防止のため貯蔵庫の可燃物は除去し、缶は適当な金属性の容器(バケツ等)の中に置き点火すること。 ・発煙終了後、約15時間そのままにした後、開放する。 ・くん煙中は庫内に入らないこと。また、くん煙終了後は十分換気した後に入室すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かないこと。 ・貯蔵庫内に葉たばこのある状態で使用しないこと。 ・葉たばこが直接接触する可能性のある資器材(作業台、包装材料、圧搾梱包機、当て板等)については、くん煙時にビニール等で養生または隔離を行うこと。 ・くん煙後は、床または壁に直接葉たばこが接することのないように注意すること。

Ⅲ 殺虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用害虫	希釈倍数	10a当たり 使用量
合成ピレスロイド剤	ペルメトリン剤	ガードベイトA <3A>	粒剤 (0.1%)	2440	kg	ネキリムシ類	—	kg 3
		野菜ひろばN <3A>	粒剤 (0.1%)	2445	kg			
クロロニコチル剤	イミダクロプリド剤	アドマイヤー1 <4A>	粒剤 (1%)	2450	kg	アブラムシ類	—	kg 3
		アドマイヤー <4A>	水和剤 (10%)	2460	g	アブラムシ類	2,000 ^倍	L 100 ~ 180
	アセタミプリド剤	モスピラン <4A>	顆粒水溶剤 (20%)	2485	g	アブラムシ類	2,000 ~ 4,000 ^倍	L 25 ~ 180
			粒剤 (2%)	2490	kg	アブラムシ類	—	g/株 0.5 ~ 1 g/株 0.25
	ニテンピラム剤	ベストガード <4A>	水溶剤 (10%)	2500	g	アブラムシ類 タバコノミハムシ	2,000 ^倍	L 100 ~ 180
	クロチアニジン剤	ナイスパートナー <4A>	フロアブル (20%)	2470	mL	モモアカ アブラムシ	5,000 ^倍	L 25 ~ 180
その他殺虫剤	ピリフルキナゾン剤	コルト <9B>	顆粒水和剤 (20%)	2620	g	アブラムシ類	4,000 ^倍	L 25 ~ 180
生物農薬	BT剤	トアローCT <11A>	水和剤 (7%)	2550	g	タバコアオムシ	1,000 ~ 2,000 ^倍	L 25 ~ 180
						ヨトウムシ	500 ~ 1,000 ^倍	L 25 ~ 180
		デルフィン <11A>	顆粒水和剤 (10%)	2560	g	タバコアオムシ ヨトウムシ	1,000 ~ 2,000 ^倍	L 25 ~ 180
昆虫成長制御剤	クロルフルアズロン剤	アタブロン <15>	乳剤 (5%)	2570	mL	ヨトウムシ	2,000 ^倍	L 100 ~ 180
	ブプロフェジン剤	アブロード <16>	水和剤 (25%)	2580	g	オンシツコナジラミ (幼虫)	2,000 ^倍	L 100 ~ 180

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法					毒性	水産動植物影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用回数	本剤の使用回数	下記成分を含む農薬の総使用回数			
植付時	株元散布	1 回以内	1 回以内	1 ペルメトリン	1 普通物	I	・ 蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・ 薬剤が直接葉に触れると葉害を生じるおそれがあるので注意すること。
植付期	植穴土壌混和	1	1	2 イミダクロプリド (植付後は1回)	普通物	I	・ 蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	1	1		劇物	I	・ 眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・ 蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	2 アセタミプリド	劇物	I	・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・ 蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。 ・ ミツバチに対し影響があるので注意すること。
植付時 子床期後半	株元散布	1	1		普通物	I	・ 株元に処理して覆土する。 ・ 蚕に対し影響があるので注意すること。 ・ 薬剤が直接葉に触れると葉害を生じるおそれがあるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	1	1	1 ニテンピラム	1 普通物	I	・ 蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・ タバコノミハムシに対しては、発生初期に時期を逸しないように散布すること。
収穫20日前まで	茎葉散布	1	1	1 クロチアニジン	1 普通物	I	・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・ 蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	2 ピリフルキナゾン	2 普通物	II P41参照	・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること ・ ミツバチに対して影響があるので注意すること。
発生初期 ただし、収穫3 日前まで	茎葉散布	4	4	4 BT	普通物	I	・ 蚕に対し毒性があるので注意すること。 ・ 若令幼虫に対し適期に散布すること。 ※殺菌剤(茎葉散布剤)との使用間隔についてはP42を参照すること。
発生初期 ただし、収穫10 日前まで	茎葉散布	2	2		普通物	I	・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ 蚕に対し毒性があるので注意すること。 ・ 若令幼虫に対し適期に散布すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	1	1	1 クロルフルアズロン	1 普通物	II P41参照	・ 眼に対し強い刺激性、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・ 遅効性のため幼虫期の早い時期に散布する。 ・ 蚕に対し長期間毒性があるので、桑園の近くでは使用しないこと。
発生初期 ただし、収穫10 日前まで	茎葉散布	2	2	2 ブプロフェジン	2 普通物	I	・ 眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ 遅効性のため幼虫期の早い時期に散布する。

Ⅲ 殺虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用害虫	希釈倍数	10a当たり 使用量
その他殺虫剤	インドキサカルブ剤	トルネードエース <22A>	ドライ フロアブル (5%)	2595	g	タバコアオムシ ヨトウムシ	2,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
		ファイントリムDF <22A>	ドライ フロアブル (5%)	2590	g	タバコアオムシ ヨトウムシ	2,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
	メタフルミゾン剤	アクセル <22B>	フロアブル (25%)	2600	mL	ヨトウムシ タバコアオムシ	1,000 ~ 2,000 ^倍 2,000 ^倍	25 ~ 180 ^L
アントラニリックジファミド剤	クロラントラニリ プロール剤	プレバゾン <28>	フロアブル (5%)	2505	mL	ヨトウムシ	2,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
	シアントラニリ プロール剤	ベネビアOD <28>	水和剤 (10.3%)	2510	mL	ヨトウムシ タバコノミハムシ	4,000 ^倍	100 ~ 180 ^L
その他殺虫剤	メタルデヒド剤	マイマイペレット <->	粒剤 (3.5%)	2530	kg	カタツムリ類	—	kg 4
	燐酸第二鉄剤	スラゴ <->	粒剤 (0.98%)	2605	g	ナメクジ類 カタツムリ類	—	g/m ² 1 ~ 5
	ヒドロキシプロピル化 リン酸架橋デンブ ン液剤	粘着くん <->	液剤 (5%)	2610	L	モモアカ アブラムシ	100 ^倍	25 ~ 180 ^L

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用方法					毒性	水産 動植物 影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
収穫10日前まで	茎葉散布	1	1	回以内 インドキサカルブ	1	普通物	I ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・蚕・ミツバチに対して影響があるので注意すること。 ・ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
収穫10日前まで	茎葉散布	1	1			普通物	I
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	メタフルミゾン	2	普通物	I ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・蚕・ミツバチに対して影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	クロラントラニリ プロール	2	普通物	II P41参照 ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・蚕に対し影響があるので注意すること。
収穫10日前まで	茎葉散布	2	2	シアントラニリ プロール	2	普通物	I ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
植付後	株元散布	2	2	メタアルデヒド	2	普通物	I ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・降雨直前の散布はさけること。
発生時	株元および その周辺、 発生場所に 配置	4	4	燐酸第二鉄	4	普通物	I ・たばこに本剤がかからないように土壌表面に処理すること。 ・眼に対して刺激性があるので、注意すること。
収穫3日前まで	茎葉散布	2	2	ヒドロキシプロピル化 リン酸架橋デンプン	2	普通物	I ・本剤は散布液が直接アブラムシにかからないと効果がないため、アブラムシにむらなく葉液がかかるよう葉の表裏にていねいに散布すること。

IV 土壌くん蒸剤・殺線虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農薬 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害虫	10a 当たり使用量 1 穴当たり使用量	使用時期
土 壌 く ん 蒸 剤	クロルピクリン剤	クロルピクリン <8B>	くん蒸剤 (99.5%)	3010	本畑 L 肥土 mL	立枯病 疫 病 黒根病 わい化病 センチュウ類	【中層全面注入処理】 1 穴当たり mL 2 10a 当たり L 約 22	植付3ヶ月前まで
							【畦内注入処理】 1 穴当たり mL 2 10a 当たり L 約 6	植付30日前まで
							【肥土注入処理】 1 穴当たり mL 3 肥土 1m ³ 当たり mL 約 110	肥土作成時
						立枯病	【深層全面注入処理】 1 穴当たり mL 2 10a 当たり L 約 13	植付3ヶ月前まで
			錠剤 4g/錠 (70%)	3020	錠	立枯病 わい化病 センチュウ類	【全面埋没処理】 1 穴当たり 錠 1 10a 当たり 錠 11,100	植付3ヶ月前まで
							【畦内埋没処理】 1 穴当たり 錠 1 10a 当たり 錠 2,500 ~ 3,700	植付30日前まで
							【肥土埋没処理】 1 穴当たり 錠 1 肥土 1m ³ 当たり 錠 37	肥土作成時
			ドクロール <8B>	3030	本畑 L 肥土 mL	立枯病 センチュウ類 ハリガネムシ ネキリムシ	【全面注入処理】 1 穴当たり mL 2 10a 当たり L 約 22	植付3ヶ月前まで
			ドジョウピクリン <8B>	3040	本畑 L 肥土 mL		【畦内注入処理】 1 穴当たり mL 2 10a 当たり L 約 6	植付30日前まで
			クロピク80 <8B>	3050	本畑 L 肥土 mL		【肥土注入処理】 1 穴当たり mL 3 肥土 1m ³ 当たり mL 約 110	肥土作成時

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法				毒性	水産 動植物 影響	留意事項
処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
《ほ場全面土壌注入》 30×30cm間隔で地表面から15cmの深さに2mL処理し、直ちに注入口をふさぎ鎮圧した後、必ずポリエチレン等で被覆する	回以内	回以内	回以内			<p>※クロルピクリン剤の使用に当たって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないように取扱いには十分注意すること。 ・本剤は催涙性の強い刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので、取扱いは十分注意すること。 ・皮膚に対し強い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう取扱いには十分注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・本剤の投薬作業の際は、吸引缶(活性炭入)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性保護衣等を着用し、周囲に人間や家畜を近づけないこと。 ・特に住宅周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意しガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。 <p>①高温期の処理を避け、気温の低い時期・時間帯に行うこと。 ②住宅・畜舎等が風下になる場合、使用を控えること。</p> <p>・他剤と混用しないこと。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により発熱し危険であるので注意すること。</p> <p>・本剤処理前に、耕起、砕土および整地等を行ってから処理すること。</p> <p>・処理時の土壌の水分状態は、土を握って放すと割れ目ができる程度の時に処理すること。</p> <p>・温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時に使用すること。</p> <p>・薬害防止のため、ガスが完全に抜けたことを確認してから、は種および植付すること。</p> <p>・消石灰等のアルカリ性肥料散布直後に本剤の処理を行うと薬害のおそれがあるので注意すること。</p> <p>・窒素吸収量が増加するので土壌および処理方法に応じた減肥を行うこと。</p> <p>・被覆期間は2週間以上が望ましい。</p> <p>・畦内注入処理で、成畦被覆と同時に処理を行う場合は、所定位置に所定量処理しながら成畦被覆する。</p> <p>◇「クロルピクリンくん蒸剤」における注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液漏れ、液だれがなく、正確に注入量を調節できる土壌消毒機を使用すること。 <p>◇「深層全面注入処理」における注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用方法どおり処理した場合、処理後の被覆は特に必要としないが、自治体で被覆が義務付けられている場合や、ガスによる危被害のおそれがある場合はポリエチレン等で被覆すること。 ・薬剤の注入位置が深いため、ガス抜けに時間がかかるので、くん蒸処理後から畦立までの期間を1ヶ月以上とること。 ・砂質土壌や土塊の残るほ場等においては被覆を行うこと。 <p>◇「クロルピクリン錠剤」における注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸湿するとガス化しやすいので、保管には十分注意すること。 <p>◇「ドロクロール、ドジョウピクリン、クロピク80くん蒸剤」における注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液漏れ、液だれがなく、正確に注入量を調節できる土壌消毒機を使用すること。
《畦内土壌注入》 畦立後、畦中央に30cm間隔で畦頂上から20cmの深さに2mL処理し、直ちに注入口をふさぎ、必ずポリエチレン等で被覆する	1	1	[苗床期1 または 本畑期1]	1	劇物	
《肥土注入》 肥土を高さ30cmに積み上げ、30×30cm間隔で肥土表面から15cmの深さに3mL処理し、直ちに注入口をふさぎ、これを繰り返し、最後にポリエチレン等で、必ず7日間以上被覆する						
《ほ場全面土壌深層注入》 専用の深層土壌消毒機を用いて、40×40cm間隔で地表面から確実に30cmの深さに2mL処理し、直ちに注入口をふさぎ鎮圧する						
《ほ場全面土壌埋没》 30×30cm間隔で地表面から15～20cmの深さに内包装のまま1穴当たり1錠ずつ処理し、直ちに埋没口をふさぎ、必ずポリエチレン等で被覆する	1	1	[苗床期1 または 本畑期1]	1	IV	
《畦内土壌埋没》 畦立後、畦中央の30cm間隔で畦頂上から20cmの深さに内包装のまま1穴当たり1錠ずつ処理し直ちに埋没口をふさぎ、必ずポリエチレン等で被覆する						
《肥土埋没》 肥土を高さ30cmに積み上げ、30×30cm間隔で肥土表面から15cmの深さに内包装のまま1穴当たり1錠ずつ処理し、直ちに埋没口をふさぎ、これを繰り返し、最後にポリエチレン等で、必ず10日間以上被覆する						
《ほ場全面土壌注入》 30×30cm間隔で地表面から15cmの深さに2mL処理し、直ちに注入口をふさぎ鎮圧した後、必ずポリエチレン等で被覆する	1	1	[苗床期1 または 本畑期1]	1	P41参照	
《畦内土壌注入》 畦立後、畦中央に30cm間隔で畦頂上から20cmの深さに2mL処理し、直ちに注入口をふさぎ必ずポリエチレン等で被覆する						
《肥土注入》 肥土を高さ30cmに積み上げ、30×30cm間隔で肥土表面から15cmの深さに3mL処理し、直ちに注入口をふさぎ、これを繰り返し、最後にポリエチレン等で、必ず7日間以上被覆する						

IV 土壌くん蒸剤・殺線虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害虫	10a 当たり使用量 1 穴当たり使用量	使用時期
土壌くん蒸剤	クロルピクリン・ D-D剤	ソイリーン <8A・8B>	くん蒸剤 [クロルピクリン 41.5% D-D 54.5%]	3070	L	センチュウ類	【畦内注入処理】 1穴当たり 2～3 mL	植付30日前まで
土壌くん蒸剤	カーバム剤	NCS <8F>	液剤 (50%)	3110	L	立枯病	【全面混和处理】 原液として 10a 当たり 30 L	植付30日前まで
						立枯病 疫 病	【全面注入処理】 原液として 1 穴当たり 3～5 mL	植付30日前まで
							【畦内注入処理】 原液として 1 穴当たり 3～5 mL	植付30日前まで
						疫 病 黒根病	【全面混和处理】 原液として 10a 当たり 20 L	植付30日前まで
センチュウ類	【畦土壌混和处理】 原液として 10a 当たり 15 L	春期耕耘時で 植付30日前まで						

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法				毒性	水産 動植物 影響	留意事項
処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
<p>《畦内土壌注入》 畦立後、畦中央の頂上から、30cm 間隔で、35cmの深さに所定量 を注入し、直ちに注入口をふさ ぎ、必ずポリエチレン等で被覆 する</p>	1	1	<p>クロルピクリン 1</p> <p>〔苗床期1 または 本畑期1〕</p> <p>D-D 1</p>	劇物	IV	<p>※クロルピクリン剤の使用に当たって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないよう取扱いには十分注意すること。 ・本剤は催涙性の強い刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので、取扱いは十分注意すること。 ・皮膚に対し強い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう取扱いには十分注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・本剤の投薬作業の際は、吸収缶(活性炭入)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性保護衣等を着用し、周囲に人間や家畜を近づけないこと。 ・特に住宅周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意しガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。 ①高温期の処理をさけ、気温の低い時期・時間帯に行うこと。 ②住宅・畜舎等が風下になる場合、使用を控えること。 <p>・他剤と混用しないこと。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により発熱し危険であるので注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤処理前に、耕起、砕土および整地等を行ってから処理すること。 ・処理時の土壌の水分状態は、土を握って放すと割れ目ができる程度の時に処理すること。 ・温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時に使用すること。 ・葉害防止のため、ガスが完全に抜けたことを確認してから、は種および移植すること。 ・消石灰等のアルカリ性肥料散布直後に本剤の処理を行うと葉害のおそれがあるので注意すること。 ・窒素吸収量が増加するので土壌および処理方法に応じた減肥を行うこと。 ・被覆期間は2週間以上が望ましい。 ・畦内注入処理で、成畦被覆と同時に処理を行う場合は、所定位置に所定量処理しながら成畦被覆する。
<p>《ほ場全面散布後土壌混和》 所定量の原液を水で2~4倍に希釈して、耕耘時に土壌全面に均一に散布し、直ちに土壌と混和する</p> <p>《ほ場全面土壌注入》 整地後30cm間隔で地表から深さ約15cmに所定量を注入し、直に注入口をふさぎ、ポリエチレン等で被覆する</p> <p>《畦内土壌注入》 畦立後、畦中央の30cm間隔で畦頂上から15cmの深さに所定量を注入し、ポリエチレン等で被覆する</p> <p>《ほ場全面散布後土壌混和》 所定量の原液を水で2~4倍に希釈して、耕耘時に土壌全面に均一に散布し、直ちに土壌と混和する</p> <p>《土壌散布後混和・成畦被覆》 所定量の原液を水で3倍で希釈して、耕耘時に土壌全面に均一に散布し、直ちに土壌混和後、成畦被覆する</p>	1	1	カーバム 1	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚および粘膜に対し刺激性があるので取扱いに注意すること。 ・本剤の投薬作業の際は、吸収缶(活性炭入)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性保護衣等を着用すること。 ・かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにすること。 ・住宅周辺での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。 <p>・他剤との混用はさけること。特にクロルピクリンがわずかでも混入すると化学反応により発熱し危険であるので注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな土塊があると効果が劣るので土壌を細かく砕いてから処理すること。 ・本剤の処理は、地温15℃以上で行うこと。地温が低い時期に使用する場合はガス抜き期間を長くすること。 ・水分過多の土壌では効果が劣るので使用をさけること。 ・散布全面処理は、トラクター耕耘時にロータリーの直前に散布し、直ちに耕耘・土壌混和すること。 ・注入処理の場合の被覆は、土壌消毒効果を高めるためポリエチレン等で7日以上被覆する。 ・畦内注入処理で、成畦被覆と同時に処理を行う場合は、所定位置に所定量処理しながら成畦被覆する。 ・処理後は葉害防止のため、30日以上の期間をあけてから、植付を行うこと。

IV 土壌くん蒸剤・殺線虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農薬 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害虫	10a 当たり使用量 1 穴当たり使用量	使用時期
土 壌 く ん 蒸 剤	ダゾメット剤	バスアミド <8F>	微粒剤 (98%) (96.5%)	3130	kg	センチュウ類 角斑病 野火病	【全面混和処理】 10a 当たり 10 ~ 20 kg	秋期処理
		ガスタード <8F>				立枯病 黒根病 疫 病 畑地一年生雑草	【全面混和処理】 10a 当たり 20 ~ 30 kg	秋期処理
						センチュウ類 疫 病	【畦土壌混和処理】 10a 当たり 5 ~ 10 kg	植付30日前まで
	カーバムナトリウム 塩剤	キルパー <8F>	液剤 (30%)	3230	L	センチュウ類	【全面注入処理】 10a 当たり 40 L	秋期処理
						立枯病	【全面混和処理】 10a 当たり 60 L	秋期処理
	メチルイソチオ シアネート・D-D剤	ディ・トラペックス <8A・8F>	油剤 [メチルイソチオシ アネート 20% D-D 40%]	3150	L	センチュウ類 黒根病	【全面注入処理】 1 穴当たり 2 ~ 3 mL 10a 当たり 20 ~ 30 L	植付21日前まで
【畦内注入処理】 1 穴当たり 2 ~ 3 mL								
						立枯病 畑地一年生雑草	【全面注入処理】 1 穴当たり 3 ~ 4 mL 10a 当たり 30 ~ 40 L	植付21日前まで
							【畦内注入処理】 1 穴当たり 3 ~ 4 mL	

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法				毒性	水産動植物影響	留意事項
処理方法	使用回数	本剤の使用回数	下記成分を含む農薬の総使用回数			
<p>《ほ場全面散布後土壌混和》 ほ場全面に所定量を均一に散布し、深さ15～25cmに土壌と十分混和後、鎮圧してガスの蒸散を防ぎ、翌春耕起しガス抜きを行った後、成畦被覆する</p> <p>《土壌散布後混和・成畦被覆》 所定量を畦予定面に散布し、深さ15～25cmに土壌と十分混和後、そのまま放置し、2週間後に畦立する その2日後にポリエチレン等で被覆し、その2週間後に植え付ける</p>	回以内	回以内	回以内	劇物	Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚に付くと炎症を起こす恐れがあるので取扱いに注意し、保護マスク、不浸透性手袋、保護衣等を着用すること。 ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・住宅付近での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮し、特に住宅に隣接するほ場では使用しないこと。 ・水にふれると有毒なガスが発生するので保管及び取扱いに注意すること。 ・本剤は土壌中の水分により分解しガスを発生させることによって効果を発揮するので、適正水分時に実施すること。 ・地温が10℃以下の時には使用しないこと。 ・全面混和处理でガス抜きが不十分であると薬害をおこすので、2回以上は耕起によるガス抜きを行うこと。 ・畦土壌混和处理では、薬害の恐れがあるので、使用方法を遵守し、成畦と同時に被覆作業は行わないこと。
<p>《ほ場全面土壌注入》 所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する</p> <p>《ほ場全面散布後土壌混和》 所定量の薬液を土壌表面に散布し直ちに混和し被覆する</p>	1	1	1	普通物	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・クロルピクリン、D-Dとは化学反応を起こし、発熱して危険であるので十分留意すること。 ・本剤処理前に、耕起、砕土および整地等を行ってから処理すること。 ・ガス抜きが不十分であると薬害を起こすので注意すること。 ・土壌が乾燥しているとガスが抜けやすく効果がでにくいので処理前に十分灌水すること。 ・本剤を土壌注入する場合は、注入間隔を出来るだけ狭くするのが望ましい。 ・本剤を土壌に散布混和する場合は、所定量薬液を水で3倍程度に希釈して散布すると、ほ場に均一に散布できる。
<p>《ほ場全面土壌注入》 30×30cm間隔で地表面から12～15cmの深さに所定量を注入し直ちに注入口をふさぎ鎮圧する</p> <p>《畦内土壌注入》 畦立後、畦中央の30cm間隔で畦頂上から12～15cmの深さに所定量を注入し、直ちに注入口をふさぎ鎮圧する</p> <p>《ほ場全面土壌注入》 30×30cm間隔で地表面から12～15cmの深さに所定量を注入し直ちに注入口をふさぎ鎮圧する</p> <p>《畦内土壌注入》 畦立後、畦中央の30cm間隔で畦頂上から12～15cmの深さに所定量を注入し、直ちに注入口をふさぎ鎮圧する</p>	1	1	1	劇物	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、粘膜に対し刺激性があるので取扱いに注意し、保護マスク、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。 ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・住宅付近では使用しないこと。 ・本剤処理前に、耕起、砕土および整地等を行ってから処理すること。 ・処理時の土壌の水分状態に留意し、なるべく地温15℃以上の時に実施すること。 ・やむを得ず10℃以下の時に使用する場合は、ガス抜きまでの期間を長く（14日以上）とる。 ・薬害防止のため、ガスが完全に抜けたことを確認してから植付すること。 ・消石灰等のアルカリ性肥料散布直後に本剤の処理を行うと薬害の恐れがあるので注意すること。 ・畦内注入処理で、成畦被覆と同時に処理を行う場合は、所定位置に所定量処理しながら成畦被覆する。 ・畦内注入処理では、鎮圧が不足しガスの揮散が早い被覆をしないと防除効果が低下する。 ・畑地1年生雑草への効果は、秋期処理（植付3ヶ月前）全面注入処理における効果である。

IV 土壌くん蒸剤・殺線虫剤

分類	種類	名称 <IRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農業 コード	単位	農薬の使用方法		
						適用病害虫	10a 当たり使用量 1 穴当たり使用量	使用時期
D-D剤		テロン <8A>	油剤 (97%)	3170	L	センチュウ類	【全面注入処理】 1 穴当たり mL 2 10a 当たり L 20	植付30日前まで
		DC <8A>		3180	L			
		D-D <8A>		3190	L		【畦内注入処理】 1 穴当たり mL 1.3 ~ 2 10a 当たり L 4 ~ 6	植付30~45日 前まで
		旭D-D <8A>		3191	L			

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。

注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。

注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用方法				毒性	水産 動植物 影響	留意事項
処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
《ほ場全面土壌注入》 30cm×30cm間隔で地表面から 深さ15cmに所定量の薬液を注 入し、直ちに注入口をふさぎ、 鎮圧する	回以内	回以内	回以内	劇 物	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので取扱いに注意し、保護マスク、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。 ・<u>住宅付近での使用にあたっては十分注意すること。</u> ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・本剤処理前に、耕起、砕土および整地等を行ってから処理すること。 ・畦内注入処理で、成畦被覆と同時に処理を行う場合は、所定位置に所定量処理しながら成畦被覆する。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・ほ場全面土壌注入の場合、ガス抜きが不十分であると薬害を起こす恐れがあるので注意すること。
《畦内土壌注入》 畦立・畦面被覆後に植付予定位置 の深さ15～20cmの深さに所定量 を注入し、直ちに覆土鎮圧する 但し、ガス抜きは行わない	1	1	D-D 1			

V 除草剤

分類	種類	名称 <HRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農薬 コード	単位	農薬の使用方法			
						適用雑草	10a 当たり 使用量	希釈水量	使用時期
その他	セトキシジム剤	ナブ <1>	乳剤 (20%)	4080	mL	畑地1年生 イネ科雑草 〔ただし、スズメノカタ ビラを除く〕	150 ~ 200 ^{mL}	100 ~ 150 ^L	雑草生育期 但し 植付10日前まで または 植付後10日後か ら大土寄期まで
ジ ニ ト ロ ア ニ リ ン 剤	トリフルラリン剤	トレファノサイド <3>	粒剤 (2.5%)	4030	kg	畑地1年生雑草 〔ただし、ツククサ、 カヤツリグサ、キ ク、アブラナ科雑草 を除く〕	3 ~ 4 ^{kg}	—	秋期施肥畦立時 マルチ前 (植付3~ 5ヶ月前)
			乳剤 (44.5%)	4040	mL	畑地1年生雑草 〔ただし、ツククサ、 カヤツリグサ、キ ク、アブラナ科雑草 を除く〕	200 ~ 250 ^{mL}	100 ^L	大土寄直後 (雑草発生前)
			粒剤 (3%)	4060	kg	畑地1年生雑草	4 ^{kg}	—	大土寄直後 (雑草発生前)
有 機 リ ン 剤	ブタミホス剤	クレマート <3>	乳剤 (50%)	4050	mL	畑地1年生雑草	200 ^{mL}	100 ~ 150 ^L	植付10日前まで (雑草発生前)
		クレマートU <3>	粒剤 (3%)	4060	kg	畑地1年生雑草	4 ^{kg}	—	
ア ミ ノ 酸 剤	グルホシネートP剤	ザクサ <10>	液剤 (11.5%)	4065	mL	畑地1年生雑草	200 ~ 500 ^{mL}	100 ~ 150 ^L	大土寄期の 雑草生育期
	グルホシネート剤	バスタ <10>	液剤 (18.5%)	4070	mL	畑地1年生雑草	200 ~ 300 ^{mL}	100 ~ 150 ^L	植付10日前まで (雑草生育期) 大土寄期 (雑草生育期 畦面・畦間処理)

注1) 基準書中の「使用回数」……………一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」……………適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」…適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法				毒性	水産動植物影響	留意事項	
処理方法	使用回数	本剤の使用回数	下記成分を含む農薬の総使用回数				
雑草茎葉散布	1回以内	1回以内	セトキシジム 1回以内	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・イネ科でも雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、雑草の生育期に散布する。 ・遅効性があり、雑草を完全に枯殺するまで7～10日を要するので注意すること。 ・薬剤がたばこに飛散しないように注意すること。 ・養殖池周辺での使用は避けること。 	
《折衷マルチ》 土壌表面散布	1	1	トリフルラリン	1	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。 ・<u>粒剤を秋期施肥畦立時散布の場合は、折衷マルチに限る。</u> ・奇形葉の発生が認められることがあるが回復し、生育には影響しない。
畦間土壌表面散布						P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・大土寄直後の散布では、薬剤がたばこに付着しないよう畦間に均一に散布する。
畦間土壌表面散布	1	1			I	<ul style="list-style-type: none"> ・本剤はイネ科雑草に比べ広葉雑草に対してはやや効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優占するほ場で使用するのが効果的である。 ・土壌が非常に乾いているときは効果が劣る。 	
《折衷マルチ》 畦立後 畦土壌全面散布	1	1	ブタミホス	1	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・<u>トンネル栽培（有孔の貼付トンネル栽培を除く）、改良マルチ栽培では使用しないこと。</u> ・多年性雑草、キク科雑草には効果が劣るので、他の雑草を対象に処理すること。 ・砂地では薬害が生じやすいので使用量を減じること。 ・植付時、処理土壌がたばこの茎葉に接触しないよう注意すること。 ・ミツバチに対し影響があるので注意すること。
						P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>トンネル栽培（有孔の貼付トンネル栽培を除く）、改良マルチ栽培では使用しないこと。</u> ・多年性雑草、キク科雑草には効果が劣るので、他の雑草を対象に処理すること。 ・植付時、処理土壌がたばこの茎葉に接触しないよう注意すること。 ・養殖池周辺での使用は避けること。
雑草茎葉散布	1	1	グルホシネート及びグルホシネートP	1	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに注意すること。 ・薬剤がたばこに飛散しないように注意すること。 ・雑草の生育期に有効で、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、時機を失さないように散布すること。 ・薬液が雑草全体に付着するよう丁寧に散布すること。
雑草茎葉散布					P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・薬剤がたばこに飛散しないように注意すること。 ・薬液が土壌に落下すると速やかに不活性化するので、植物の茎葉全体に均一にかかるように散布すること。 	

V 除草剤

分類	種類	名称 <HRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農薬 コード	単位	農薬の使用方法			
						適用雑草	10a 当たり 使用量	希釈水量	使用時期
その他	クロルフタリム剤	ダイヤモンド <14>	水和剤 (50%)	4090	g	畑地1年生雑草	200 ^g	100 ~ 200 ^L	植付10日前まで (雑草発芽前)
酸 アミ ド 剤	アラクロール剤	ラッソー <15>	乳 剤 (43%)	4020	mL	畑地1年生雑草	200 ^{mL}	100 ^L	植付10~20日前 (雑草発生前)
							100 ^{mL}	100 ^L	植付10~20日前 (雑草発生前)
ピ ピ リ リ ウ ム 剤	ジクワット・ パラコート剤	プリグロックSL <22>	液剤 〔ジクワット 7% パラコート 5%〕	4071	mL	畑地1年生雑草	800 ~ 1,000 ^{mL}	100 ~ 150 ^L	大土寄期の 雑草生育期

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。

注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。

注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用方法				毒性	水産動植物影響	留意事項
処理方法	使用回数	本剤の使用回数	下記成分を含む農薬の総使用回数			
《折衷マルチ》 畦立直後 畦土壌全面散布	回以内 1	回以内 1	クロルフルリム 回以内 1	普通物	Ⅱ P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し刺激性があるので注意すること。 ・イネ科雑草に比べ、広葉雑草に対しては効果がやや劣る。 ・<u>トンネル栽培（有孔の貼付トンネル栽培を除く）、改良マルチ栽培では使用しないこと。</u> ・雑草発芽後では効果が劣るので発芽前に処理すること。 ・植付時、処理土壌がたばこの茎葉に接触しないよう注意すること。
《裸地、普通マルチ》 畦立後 畦土壌全面散布	1	1	アラクロール 1	普通物	Ⅱ P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し強い刺激性、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 ・<u>改良マルチ栽培では使用しないこと。</u> ・雑草発芽後では効果が劣るので発芽前に処理すること。 ・タデ科等広葉雑草には効果が劣るのでイネ科雑草を対象に処理すること。 ・初期生育が遅れることがあるので、処理後植付までの期間は所定期間内でできるだけ長くすること。
《折衷マルチ》 畦立後 畦土壌全面散布						
畦間雑草茎葉散布	1	1	ジクワット 1 パラコート 1	毒物	Ⅱ P41参照	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・薬剤がたばこに飛散すると、薬害が発生するため、使用に当たっては十分注意し、畦間でのみに使用に限定すること。 ・薬液が土壌に落下すると速やかに不活性化するので、植物の茎葉全体に均一にかかるように散布すること。

VI 植物成長調整剤

分類	種類	名称 <HRACコード>	剤型 (有効成分含量)	農薬 コード	単位	農薬の使用法		
						適用	希釈倍数	1株当たり 使用量
わき芽抑制剤	ペンディメタリン剤	エキガゾール <3>	乳剤 (3%)	5010	mL	わき芽抑制	30 ~ 40 倍	mL/株 15 ~ 30
	デシラルコール・ フトルアリン剤	イエローリボンS <-・3>	乳剤 [デシラルコール 48.7% フトルアリン 8.12%]	5060	mL	わき芽抑制	50 倍	mL/株 20
	デシラルコール・ クロルタル ジメチル剤	ホワイトリボン <->	乳剤 [デシラルコール 70% クロルタル ジメチル 0.2%]	5050	mL	わき芽抑制	30 ~ 50 倍	mL/株 20
	デシラルコール剤	コンタクト <->	乳剤 (78%)	5020	mL	わき芽抑制	【黄色種】 30 ~ 40 倍 【在来種 (2在以外) ・バーレー種】 30 ~ 40 倍 【在来種 (2在)】 40 倍	mL/株 10 ~ 15 mL/株 20 ~ 30 mL/株 10 ~ 15 mL/株 20 ~ 30 mL/株 10 ~ 15 mL/株 20 ~ 30

※わき芽抑制剤の具体的使用方法については、
P36~39 『接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法』による。

注1) 基準書中の「使用回数」 …… 一適用病害虫で、農薬の種類、名称、剤型毎の使用できる回数。
 注2) 基準書中の「本剤の使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、農薬の種類、名称、剤型毎で使用できる回数。
 注3) 基準書中の「下記成分を含む農薬の総使用回数」 …… 適用病害虫に関わらず、同一成分を含有する農薬の種類毎に使用できる回数。

農薬の使用法					毒性	水産 動植物 影響	留意事項
使用時期	処理方法	使用 回数	本剤の 使用 回数	下記成分を 含む農薬の 総使用回数			
心止後	スポット散布	回以内 2	回以内 2	ペンディメタリン 回以内 2	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し強い刺激性、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・<u>コンタクトを併用する場合には、「接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法」を参照のこと。</u> ・収穫葉に薬液が飛散しないよう接触型専用ノズルを使用し、所定の濃度の薬液が幹に沿ってわき芽に十分接触するように散布すること。 ・散布後の降雨は効果が低下するおそれがあるので予想される場合は散布をさけること。 ・降雨などにより、散布が遅れてわき芽が伸長した場合は、大きく伸びたわき芽（3cm以上）を摘芽してから散布すること。
						P41参照	
心止後	スポット散布	2	2	ブトルアリン 2 デシルアルコール 黄色種 在バ種 5 2	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に対し強い刺激性、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・<u>コンタクトを併用する場合には、「接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法」を参照のこと。</u> ・収穫葉に薬液が飛散しないよう接触型専用ノズルを使用し、所定の濃度の薬液が幹に沿ってわき芽に十分接触するように散布すること。 ・散布後の降雨は効果が低下するおそれがあるので予想される場合は散布をさけること。 ・降雨などにより、散布が遅れてわき芽が伸長した場合は、大きく伸びたわき芽（3cm以上）を摘芽してから散布すること。 ・蚕に対し毒性があるので注意すること。
心止後	スポット散布	2	2	クオルタール ジメチル 2 デシルアルコール 黄色種 在バ種 5 2	普通物	I	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・<u>コンタクトを併用する場合には、「接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法」を参照のこと。</u> ・収穫葉に薬液が飛散しないよう接触型専用ノズルを使用し、所定の濃度の薬液が幹に沿ってわき芽に十分接触するように散布すること。 ・散布直後の降雨は効果が低下するおそれがあるので、降雨が予想される場合は散布をさけること。 ・降雨などにより、散布が遅れてわき芽が伸長した場合は、大きく伸びたわき芽（3cm以上）を摘芽してから散布すること。
発蕾期から心止期 まで	スポット散布	6	6	デシルアルコール 6	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ・眼、皮膚に対し刺激性があるので注意すること。 ・蚕・ミツバチに対し影響があるので注意すること。 ・<u>エキガゾールまたはイエローリボンスを併用する場合には、「接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法」を参照のこと。</u> ・収穫葉に薬液が飛散しないよう接触型専用ノズルを使用し、所定の濃度の薬液が幹に沿ってわき芽に十分接触するように散布すること。 ・発蕾期は、花蕾に薬液が飛散しないように特に注意すること。 ・散布後の降雨は効果が低下するおそれがあるので予想される場合は散布をさけること。 ・降雨などにより、散布が遅れてわき芽が伸長した場合は、大きく伸びたわき芽（3cm以上）を摘芽してから散布すること。
心止後	スポット散布 連続散布 定速散布 <small>〔但し、定速散布は「コンタクト専用定速散布装置」を用いること〕</small>						
心止期	スポット散布	3	3	デシルアルコール 3	普通物	II	<ul style="list-style-type: none"> ◇『<u>コンタクト専用定速散布装置</u>』における注意事項 ・使用可能な品種は黄色種、剤はコンタクトに限り、心止後以降での使用を厳守する。 ・コンタクト単用散布体系での使用に限り、他剤との併用散布体系では使用しないこと。
心止後							
発蕾期							
心止後							
						P41参照	

接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法

- ・この具体的使用法は、たばこ用農薬の使用基準に基づいて作成したものである。
- ・接触型わき芽抑制剤の使用にあたっては、この具体的使用法の範囲内で使用しなければならない。

◇黄色種

1. 使用方法（希釈倍数・使用量）

(1) コンタクト乳剤	発蕾期から心止期まで 心止後	30～40倍 30～40倍	10～15mL/株 20～30mL/株
(2) エキガゾール乳剤	心止後	30～40倍	15～30mL/株
(3) イエローリボンS乳剤	心止後	50倍	20mL/株
(4) ホワイトリボン乳剤	心止後	30～50倍	20mL/株

2. 厳守事項

1) 接触型わき芽抑制剤の使用にあたっては、上記の使用方法および右ページの最大使用回数・併用モデル（薬剤の組合せ、最大使用回数、散布方法、使用時期等）以内とする。

(1) 接触型わき芽抑制剤を併用する場合は、喫味への影響の観点から、以下の組み合わせのみ可とする。

- ① コンタクト乳剤 ・ エキガゾール乳剤
- ② コンタクト乳剤 ・ イエローリボンS乳剤
- ③ コンタクト乳剤 ・ ホワイトリボン乳剤

◆接触型わき芽抑制剤を併用する場合の総使用回数は、4回以内を基本とする。

ただし、①～③の組み合わせでの併用の場合には、わき芽管理の上で必要に応じて、最後に1回のコンタクト散布が追加可能。

(2) エキガゾールについては、薬害の危険性が高いことおよび喫味への影響の観点から、『心止後以降の散布のみで回数は2回以内』とし、葉部に薬液が飛散しない『スポット散布』のみとする。

なお、たばこ作終了後、後作物を作付けする場合には、後作への影響があることから、使用をさけることが望ましい。

(3) イエローリボンS・ホワイトリボンについては、薬害の危険性が高いことおよび喫味への影響の観点から、『心止後以降の散布のみで回数は2回以内』とし、葉部に薬液が飛散しない『スポット散布』のみとする。

なお、たばこ作終了後、後作物を作付けする場合には、散布後の経過日数、耕うん等のほ地管理および気象環境等によっては、後作への影響が考えられることから、それを考慮して使用することが望ましい。

(4) コンタクトの連続散布および定速散布は、心止後以降での使用を厳守する。

(5) 定速散布は、「コンタクト専用定速散布装置」を用いたコンタクト単用散布体系での使用に限り、他剤との併用散布体系では使用しない。

(6) 使用にあたっては、使用時期・散布方法・希釈倍数・使用量を厳守する。

(7) 使用にあたっては、わき芽の発生量等に応じて使用量を調節し、畦面まで流下しないようにする。

2) 接触型わき芽抑制剤を霧状に散布する『噴霧』は薬害が起こることから、全ての薬剤において禁止とする。

3. 最大散布回数・併用モデル

区分	散布方法	発蕾期	心止期	心止後		
単用の場合	コンタクト単用 [発蕾期～心止期までは2回以内 心止後は4回以内]	 コンタクト (スポット散布)	 コンタクト (スポット散布)	 コンタクト スポット散布 連続散布 定速散布	 コンタクト スポット散布 連続散布 定速散布	
	エキガゾール単用 (心止後2回以内)			 エキガゾール (スポット散布)	 エキガゾール (スポット散布)	
	イエローリボンS単用 (心止後2回以内)			 イエローリボンS (スポット散布)	 イエローリボンS (スポット散布)	
	ホワイトリボン単用 (心止後2回以内)			 ホワイトリボン (スポット散布)	 ホワイトリボン (スポット散布)	
併用の場合	※併用パターンは 以下の3種類のみ ①コンタクト・ エキガゾール併用	 コンタクト (スポット散布)	 コンタクト (スポット散布)	 コンタクト (スポット散布 又は 連続散布)	 エキガゾール (スポット散布) イエローリボンS (スポット散布) ホワイトリボン (スポット散布)	併用体系の場合には、わき芽管理の上 で必要に応じて、最後に1回のコンタ クト散布が追加可能 (スポット散布 又は 連続散布)
	②コンタクト・ イエローリボンS併用	 コンタクト (スポット散布)	 コンタクト (スポット散布)	 エキガゾール (スポット散布) イエローリボンS (スポット散布)	 エキガゾール (スポット散布) イエローリボンS (スポット散布)	併用体系の場合には、わき芽管理の上 で必要に応じて、最後に1回のコンタ クト散布が追加可能 (スポット散布 又は 連続散布)
	③コンタクト・ ホワイトリボン併用	 コンタクト (スポット散布)	 コンタクト (スポット散布)	 イエローリボンS (スポット散布) ホワイトリボン (スポット散布)	 イエローリボンS (スポット散布) ホワイトリボン (スポット散布)	併用体系の場合には、わき芽管理の上 で必要に応じて、最後に1回のコンタ クト散布が追加可能 (スポット散布 又は 連続散布)

①コンタクト・エキガゾール併用

発蕾期～心止期まではコンタクトのみ2回以内、心止後はコンタクトとエキガゾール各1回の併用、またはエキガゾール単用で2回以内、ただし、わき芽管理の上で必要に応じて、最後に1回のコンタクト散布が追加可能

②コンタクト・イエローリボンS併用

発蕾期～心止期まではコンタクトのみ2回以内、心止後はコンタクトとイエローリボンS各1回の併用、またはイエローリボンS単用で2回以内、ただし、わき芽管理の上で必要に応じて、最後に1回のコンタクト散布が追加可能

③コンタクト・ホワイトリボン併用

発蕾期～心止期まではコンタクトのみ2回以内、心止後はコンタクトとホワイトリボン各1回の併用、またはホワイトリボン単用で2回以内、ただし、わき芽管理の上で必要に応じて、最後に1回のコンタクト散布が追加可能

【散布方法】

- スポット散布 : 専用のスポット噴口を用いて、幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、幹1本ずつ幹にそって薬液を流し、わき芽に確実に接触する方法
- 連続散布 : 専用のスポット噴口を用いて、幹間移動の際も薬液の吐出を止めること無く、次の幹に瞬時に移動して、葉にできるだけ飛散しないように、幹にそって薬液を流す方法
- 定速散布 : 「コンタクト専用定速散布装置」を装着した高架型作業機を用いて、幹間移動の際も薬液の吐出を止めること無く、次の幹へ終始定速で移動して、葉にできるだけ飛散しないように散布する方法

【使用時期】

- 発蕾期 : 頂上葉の葉先と花蕾の高さが揃った時期
- 心止期 : 心止作業前後の時期
- 心止後 : 心止作業以降の期間

◇在来種・バーレー種

1. 使用方法（希釈倍数・使用量）

(1) コンタクト乳剤 【在来種（2在以外）・バーレー種】	心止期	30～40倍	10～15mL/株	
	心止後	30～40倍	20～30mL/株	
	【在来種（2在）】	発蕾期	40倍	10～15mL/株
		心止後	40倍	20～30mL/株
(2) エキガゾール乳剤	心止後	30～40倍	15～30mL/株	
(3) イエローリボンS乳剤	心止後	50倍	20mL/株	
(4) ホワイトリボン乳剤	心止後	30～50倍	20mL/株	

2. 厳守事項

1) 接触型わき芽抑制剤の使用にあたっては、上記の使用方法および右ページの最大使用回数・併用モデル（薬剤の組合せ、最大使用回数、散布方法、使用時期等）以内とする。

(1) 接触型わき芽抑制剤を併用する場合は、喫味への影響の観点から、以下の組み合わせのみ可とする。

- ① コンタクト乳剤 ・ エキガゾール乳剤
- ② コンタクト乳剤 ・ イエローリボンS乳剤
- ③ コンタクト乳剤 ・ ホワイトリボン乳剤

◆接触型わき芽抑制剤を併用する場合の総使用回数は、2回以内を基本とする。

ただし、コンタクトとエキガゾールの併用の場合には、わき芽管理の上で必要に応じて、最後に1回のコンタクト散布が追加可能。

(2) 在来種・バーレー種では、特に薬害の危険性が高いことから、全ての薬剤において『スポット散布』のみとする。

(3) エキガゾールについては、薬害の危険性が高いことおよび喫味への影響の観点から、『心止後以降の散布のみで回数は2回以内』とする。

なお、たばこ作終了後、後作物を作付けする場合には、後作への影響があることから、使用をさけることが望ましい。

(4) イエローリボンS・ホワイトリボンについては、薬害の危険性が高いことおよび喫味への影響の観点から、『心止後以降の散布のみで回数は2回以内』とする。

なお、たばこ作終了後、後作物を作付けする場合には、散布後の経過日数、耕うん等のほ地管理および気象環境等によっては、後作への影響が考えられることから、それを考慮して使用することが望ましい。

(5) 使用にあたっては、使用時期・散布方法・希釈倍数・使用量を厳守する。

(6) 使用にあたっては、わき芽の発生量等に応じて使用量を調節し、畦面まで流下しないようにする。

2) 接触型わき芽抑制剤を霧状に散布する『噴霧』は薬害が起こることから、全ての薬剤において禁止とする。

3. 最大散布回数・併用モデル

区分	種類	散布方法	発蕾期	心止期	心止後	
単用の場合	在来種 (2在以外) バーレー種	コンタクト単用 (心止期以降3回以内)		心止 コンタクト (スポット散布)	コンタクト (スポット散布) コンタクト (スポット散布)	
	在来種 (2在)	コンタクト単用 [発蕾期は1回以内 心止期以降は2回以内]	コンタクト (スポット散布)	コンタクト (スポット散布)	コンタクト (スポット散布)	
	在来種 バーレー種	エキガゾール単用 (心止後2回以内)			エキガゾール (スポット散布)	エキガゾール (スポット散布)
		イエローリボンS単用 (心止後2回以内)			イエローリボンS (スポット散布)	イエローリボンS (スポット散布)
		ホワイトリボン単用 (心止後2回以内)			ホワイトリボン (スポット散布)	ホワイトリボン (スポット散布)
	併用の場合	在来種 バーレー種	※併用パターンは 以下の3種類のみ ①コンタクト・ エキガゾール併用 ②コンタクト・ イエローリボンS併用 ③コンタクト・ ホワイトリボン併用	コンタクト (スポット散布)	エキガゾール (スポット散布) イエローリボンS (スポット散布) ホワイトリボン (スポット散布)	エキガゾールの併用体系の場合にはわき芽管理の上で必要に応じて、最後に1回のコンタクト散布が追加可能 (スポット散布)

- ①コンタクト・エキガゾール併用
心止期はコンタクトのみ1回以内、心止後はエキガゾール1回以内、ただし、わき芽管理の上で必要に応じて、最後に1回のコンタクト散布が追加可能
- ②コンタクト・イエローリボンS併用
心止期はコンタクトのみ1回以内、心止後はイエローリボンS1回以内
- ③コンタクト・ホワイトリボン併用
心止期はコンタクトのみ1回以内、心止後はホワイトリボン1回以内

【散布方法】

スポット散布 : 専用のスポット噴口を用いて、幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、幹1本ずつ幹にそって薬液を流し、わき芽に確実に接触する方法

【使用時期】

発蕾期 : 頂上葉の葉先と花蕾の高さが揃った時期
心止期 : 心止作業前後の時期
心止後 : 心止作業以降の期間

Ⅶ 使用を制限する農薬

硫黄粉剤

使用はさけること。

ただし、前年作においてうどんこ病が激発し、本年作に発生のおそれのあるほ地については、畦畔雑草に散布することができる。

分類	種類	名称	剤型 (有効成分含量)	農薬 コード	単位	農薬の使用方法						毒性	水産 動植物 影響	
						適用病害	希釈倍数および 10a当り使用量	使用時期	処理 方法	使用 回数	本剤の 使用 回数			下記成分を 含む農薬の 総使用回数
硫黄殺菌剤	硫黄粉剤	硫黄粉剤	粉剤 (50%)	1900	kg	うどんこ病	3 ^{kg}	植付前 まで	畦畔 散布	1 ^{回以内}	1 ^{回以内}	硫黄粉 1 ^{回以内}	普通物	I

VIII 農薬の毒性・水産動植物への影響

1. 人畜に対する毒性

農薬はその人畜毒性の程度によって、毒物及び劇物取締法に従って次のように分類され、危害防止の規制を受ける。

分類	経口 (LD ₅₀)	経皮 (LD ₅₀)	吸入 (ガス) (LC ₅₀)
特定毒物	毒物のうち、その毒性が極めて強く、当該物質が広く一般に使用されるかまたは使用されると考えられるものなど、危害発生の恐れが著しいもの		
毒物	50mg/kg 以下	200mg/kg 以下	500ppm (4hr) 以下
劇物	50mg/kg を超えて 300mg/kg 以下	200mg/kg を超えて 1,000mg/kg 以下	500ppm (4hr) を超えて 2,500ppm (4hr) 以下
普通物	毒物及び劇物取締法によって規定された特定毒物、毒物、劇物以外のもの		

指定の際は、LD₅₀、LC₅₀の他、皮膚・粘膜に対する刺激性、解毒法の有無等も考慮される。

注1) LD₅₀：中央致死薬量(median lethal dose, 50% lethal dose)

一定の条件下で実験動物に薬物を接触させたり、または投与して、その実験動物の50%を死に至らしめる薬物の量をいう。

半数致死薬量ということもある。

注2) LC₅₀：中央致死濃度(median lethal concentration, 50% lethal concentration)

一定の条件下で実験動物に薬物を接触させたり、または投与して、その実験動物の50%を死に至らしめる薬物の濃度をいう。

半数致死濃度ということもある。

2. 水産動植物に対する影響

農薬の水産動植物への影響については、製剤ごとに使用上の注意事項が定められている。

本使用基準では、各製剤の魚類・甲殻類藻類への影響に対する注意事項に基づき、以下のとおり水産動植物影響を区分する。

本区分は製剤選択に活用し、実際の農薬使用の際には、農薬ラベルに記載の注意事項を確認すること。

区分	注意事項
I	記載なし
II	水産動植物に影響を及ぼす恐れがある/及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
III	水産動植物に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。 養殖池周辺での使用は避けること。
IV	本剤は水産動植物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入する恐れのある場所では使用しないこと。

注1) 区分にかかわらず、空き容器、散布器具の洗浄水等の処理については農薬ラベルに記載の注意事項のとおり対応すること。

注2) 上記以外の注意事項が記載されている製剤があるので、農薬ラベルおよび本使用基準の各剤の「留意事項」を確認すること。

Ⅸ 指定剤と対象剤の使用間隔

- ・この具体的散布方法は、たばこ用農薬の使用基準に基づいて作成したものである。
- ・指定剤と対象剤を続けて散布する場合には、この具体的散布方法の範囲内で散布しなければならない。

1. 指定剤と対象剤の組み合わせ

		指定剤 () 内は分類、種類	対象剤 *茎葉散布剤のみ
組み合わせ	①	カリグリーン (殺菌剤/無機殺菌剤/炭酸水素カリウム剤)	殺虫剤
	②	エコショット (殺菌剤/生物農薬/バチルス ズブチリス剤)	殺虫剤
	③	トアローCT (殺虫剤/生物農薬/BT剤)	殺菌剤

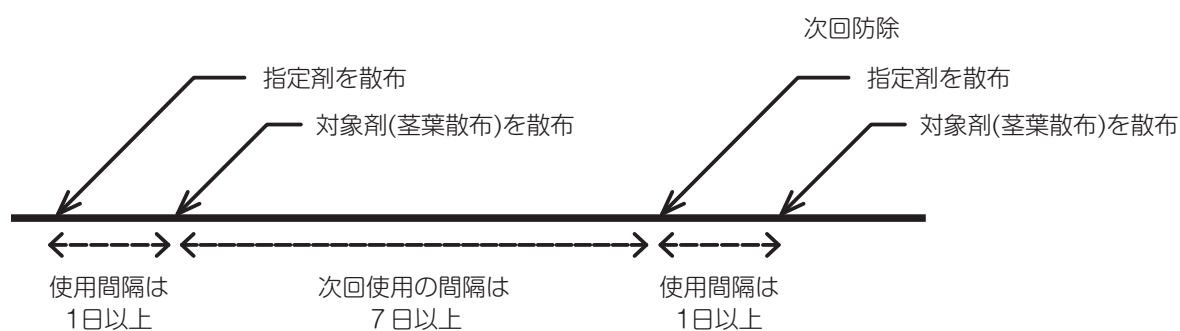
2. 使用方法

組み合わせ内の指定剤と対象剤の農薬を続けて散布する場合には、使用間隔は1日以上とする。

3. 厳守事項

- 1) 葉たばこの喫味に影響をおよぼす場合があるため、組み合わせ内であっても指定剤と対象剤を現地混用してはならない。
- 2) 指定剤を続けて散布する場合及び対象剤を続けて散布する場合には、使用間隔は1日ではなく、7日以上とする。
- 3) 農薬の使用にあたっては、使用時期・散布方法・希釈倍数・使用量・使用回数を厳守する。

4. 散布方法のモデル



注) 指定剤と対象剤(茎葉散布)の散布順序は問わない

【付 録】

1. 病害虫・雑草適用農薬一覧表

1) 殺菌剤

分類	種類	名称	病害名													
			立枯病	空洞病	野火病	角斑病	舞病	疫病	腰折病	黒根病	菌核病	赤星病	うどんこ病	灰色かび病	白絹病	T M V
ベンゾイミダゾール剤	チオファネートメチル剤	トップジンM水和剤							●	●						
	ベノミル剤	ベンレート水和剤							●	●						
ジカルボキシイミド剤	イプロジオン剤	ロブラール水和剤									●					
	プロシミドン剤	スミレックス水和剤									●					
E B I 剤	トリフルミゾール剤	トリフミン水和剤											●			
	フェナリモル剤	ルビゲン水和剤											●			
	ミクロブタニル剤	ラリー水和剤											●			
	テトラコナゾール剤	サルバトーレME液剤											●			
酸アミド剤	メプロニル剤	バシタック水和剤							●							
その他殺菌剤	ペンチオピラド剤	アフェットフロアブル														
ストロビルリン剤	クレソキシムメチル剤	ストロビーフロアブル												●		
	アゾキシストロピン剤	アミスター20フロアブル												●	●	
酸アミド剤・ストロビルリン剤	アゾキシストロピン・メタラキシルM剤	ユニフォーム粒剤							●							
抗生物質剤	ポリオキシシン剤	ポリオキシシンAL水和剤													●	●
		ポリオキシシンAL水溶剤													●	●
スルホンアミド剤	アミスルプロム剤	オラクル顆粒水和剤							●							
抗生物質殺菌剤・無機殺菌剤	カスガマイシン・銅水和剤	カスミンボルドー水和剤							●							
		銅水和剤							●							
		ホープスター水和剤							●							
抗生物質剤	ストレプトマイシン剤	ヒトマイシンS液剤	●	●	●	●										
		ストマイ液剤				●										
		アグレプト水和剤	●													
		マイシン水和剤	●													
有機塩素剤	シモキサニル・TPN剤	ブリザード水和剤							●				●			
その他殺菌剤	シモキサニル・ベンチアバリカルブイソプロピル剤	ベトファイター顆粒水和剤							●							
	プロパモカルブ塩酸塩剤	プレビクールN液剤						●	●							
ピリジナミン剤	フルアジナム剤	フロンサイド水和剤														
その他殺菌剤	オキシリニック酸剤	スターナ水和剤														
抗生物質剤・その他殺菌剤	オキシリニック酸・ストレプトマイシン剤	ナイスカプル水和剤	●	●												
土壌殺菌剤	ヒドロキシイソキサゾール剤	タチガレン液剤							●							
酸アミド剤	マンジプロパミド剤	レーバスフロアブル							●							
抗生物質剤	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン剤	アグリマイシン-100水和剤		●	●	●			●							
その他殺菌剤	アメトクトラジン・ジメトモルフ水和剤	ザンプロDMフロアブル							●							
有機銅剤	DBEDC剤	サンヨール乳剤													●	
有機塩素剤	TPN剤	ダコニール1000水和剤													●	
その他殺菌剤	イミノクタジンアルベシル酸塩剤	ヘルコート水和剤													●	●
無機殺菌剤	炭酸水素カリウム剤	カリグリーン水溶剤													●	
有機リン剤	ホセチル剤	アリエッティ水和剤							●	●						
生物農薬	トリコデルマ剤	エコホープDJ水和剤														●
	バチルス スズチリス剤	エコショット水和剤													●	
	バチルス アミロリクエファシエンス剤	インプレッションクリア水和剤													●	
抗ウイルス剤	シイタケ菌糸体抽出物	レンテミン水溶剤														●

2) 殺虫剤

分類	種類	名称	害虫名															
			ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	タバコアオムシ	アブラムシ類	ジャガイモガ	ヤサイゾウムシ	ネキリムシ類	ハリガネムシ	コガネムシ類幼虫	スリップス類	カタツムリ類	タバコシバンムシ	チャマダラメイガ	オンシツコナジラミ	タバコノミハムシ	
カーバメート剤	NAC剤	デナボン5%ベイト粒剤								●								
	ベンフラカルブ剤	オンコル粒剤				●						●						
	カルボスルファン剤	ガゼット粒剤				●												
有機リン剤	ダイアジノン剤	ダイアジノン粒剤							●	●	●							
	PAP剤	エルサン粉剤		●	●													
	マラソン剤	マラソン乳剤				●		●										
	アセフェート剤	オルトラン粒剤	オルトラン粒剤	●			●	●	●	●			●					
		オルトラン水和剤	オルトラン水和剤	●		●	●	●	●									
		ジェイエース粒剤	ジェイエース粒剤	●			●											
		ジェイエース水溶剤	ジェイエース水溶剤	●		●	●											
	MEP剤	スミチオン乳剤	●															
ジメトエート・フェンバレレート剤	ベジホン乳剤	●		●	●													

注) 本使用基準では、一部の適用害虫名を次の通り読み替えて掲載している。

- ・アザミウマ類 → スリップス類
- ・タバコガ、アオムシ → タバコアオムシ
- ・モモアカアブラムシ → アブラムシ類
- ・ナメクジ類 → カタツムリ類

2) 殺虫剤

分類	種類	名称	害虫名													
			ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	タバコアオムシ	アブラムシ類	ジャガイモガ	ヤサイゾウムシ	ネキリムシ類	ハリガネムシ	コガネムシ類幼虫	スリッブス類	カタツムリ類	タバコシバンムシ	チャマダラメイガ	オンシツコナジラミ
合成ピレスロイド剤	シハロトリン剤	サイハロン水和剤	●	●												
	エトフェンプロックス剤	トレボン乳剤	●	●	●											●
	シベルメトリン剤	アグロスリン乳剤	●	●	●											
	ビフェントリン剤	テルスター水和剤	●		●											●
		テルスタージェットくん煙剤											●	●		
	ベルメトリン剤	ガードベイトA粒剤						●								
野菜ひろばN粒剤							●									
クロロニコチル剤	イミダクロプリド剤	アドマイヤー1粒剤			●											
		アドマイヤー水和剤			●											
	アセタミプリド剤	モスピラン顆粒水溶剤			●											
		モスピラン粒剤			●											
	ニテンピラム剤	ベストガード水溶剤			●										●	
クロチアニジン剤	ナイスパートナーフロアブル			●												
その他殺虫剤	ピリフルキナゾン剤	コルト顆粒水和剤			●											
生物農薬	BT剤	トアローCT水和剤	●	●												
		デルフィン顆粒水和剤	●	●												
昆虫成長制御剤	クロルフルアズロン剤	アタブロン乳剤	●													
	ブプロフェジン剤	アブロード水和剤													●	
その他殺虫剤	インドキサカルブ剤	トルネードエース ドライフロアブル	●	●												
		ファイントリムDF ドライフロアブル	●	●												
	メタフルミゾン剤	アクセルフロアブル	●	●												
アントラニリック ジアミド剤	クロラントラニリプロール剤	プレバソンフロアブル	●													
	シアントラニリプロール剤	ベネビアOD水和剤	●												●	
その他殺虫剤	メタアルデヒド剤	マイマイペレット粒剤										●				
	磷酸第二鉄剤	スラゴ粒剤										●				
	ヒドロキシプロピル化 リン酸架橋デンプン液剤	粘着くん液剤			●											

3) 土壌くん蒸剤・殺線虫剤

分類	種類	名称	雑草名 病害虫名										
			立 病	野 病	角 病	疫 病	黒 病	わ 病	セ 病	ネ 病	ハ 病	畑 病	
			枯	火	斑		根	い	化	類	シ	シ	シ
土壌くん蒸剤	クロルピクリン剤	クロルピクリンくん蒸剤	●			●	●	●	●				
		クロルピクリン錠剤	●					●	●				
		ドロクロールくん蒸剤	●							●	●	●	
		ドジョウピクリンくん蒸剤	●							●	●	●	
		クロピク80くん蒸剤	●							●	●	●	
	クロルピクリン・D-D剤	ソイリーンくん蒸剤							●				
	カーバム剤	NCS液剤	●			●	●		●				
	ダゾメット剤	バスアミド微粒剤	●	●	●	●	●		●				●
		ガスタード微粒剤	●	●	●	●	●		●				●
	カーバムナトリウム塩剤	キルパー液剤	●						●				
メチルイソチオシアネート・D-D剤	ディ・トラベックス油剤	●				●		●				●	
殺線虫剤	D-D剤	テロン油剤							●				
		DC油剤							●				
		D-D油剤								●			
		旭D-D油剤								●			

注) 本使用基準では、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウを総称し、センチュウ類として掲載している。

4) 除草剤

すべて「畑地一年生雑草」 ※詳細はP 30、32参照

2. 索引

1) 種類別

種類別	頁	種類別	頁
BT剤	18	ス ストレプトマイシン剤	8
DBEDC剤	10	セ セトキシジム剤	30
D-D剤	28	タ ダイアジノン剤	14
MEP剤	16	ダゾメット剤	26
NAC剤	14	炭酸水素カリウム剤	10
PAP剤	14	チ チオファネートメチル剤	4
TPN剤	10	テ デシルアルコール剤	34
ア アセタミプリド剤	18	デシルアルコール・ブトルアリン剤	34
アセフェート剤	14	デシルアルコール・クロルタールジメチル剤	34
アゾキシストロビン剤	6	テトラコナゾール剤	4
アゾキシストロビン・メタラキシLM剤	6	ト トリコデルマ剤	12
アミスルブロム剤	6	トリフルミゾール剤	4
アメクトラジン・ジメトモルフ水和剤	10	トリフルラリン剤	30
アラクロール剤	32	ニ ニテンピラム剤	18
イ 硫黄粉剤	40	ハ バチルス スズチリス剤	12
イプロジオン剤	4	バチルス アミロリクエファシエンス剤	12
イミダクロプリド剤	18	ヒ ヒドロキシイソキサゾール剤	10
イミノクタジンアルベシル酸塩剤	10	ヒドロキシプロピル化リン酸架橋デンプン液剤	20
インドキサカルブ剤	20	ビフェントリン剤	16
エ エトフェンプロックス剤	16	ピリフルキナゾン剤	18
オ オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン剤	10	フ フェナリモル剤	4
オキシリニック酸剤	8	ブタミホス剤	30
オキシリニック酸剤・ストレプトマイシン剤	8	ブプロフェジン剤	18
カ カーバム剤	24	フルアジナム剤	8
カーバムナトリウム塩剤	26	プロシミドン剤	4
カスガマイシン・銅水和剤	6	プロパモカルブ塩酸塩剤	8
カルボスルファン剤	14	ヘ ベノミル剤	4
ク グルホシネート剤	30	ペルメトリン剤	18
グルホシネートP剤	30	ペンチオピラド剤	4
クレソキシムメチル剤	4	ペンディメタリン剤	34
クロチアニジン剤	18	ベンフラカルブ剤	14
クロラントラニリプロール剤	20	ホ ホセチル剤	10
クロルピクリン剤	22	ポリオキシシン剤	6
クロルピクリン・D-D剤	24	マ マラソン剤	14
クロルフタリム剤	32	マンジプロパミド剤	10
クロルフルアズロン剤	18	ミ ミクロブタニル剤	4
シ シアントラニリプロール剤	20	メ メタアルデヒド剤	20
シイタケ菌糸体抽出物	12	メタフルミゾン剤	20
ジクワット・パラコート剤	32	メチルイソチオシアネート・D-D剤	26
シハロトリン剤	16	メプロニル剤	4
シペルメトリン剤	16	リ 燐酸第二鉄剤	20
ジメトエート・フェンバレレート剤	16		
シモキサニル・TPN剤	8		
シモキサニル・ベンチアバリカルブイソプロピル剤	8		

2) 名称別

名 称	頁	名 称	頁	名 称	頁
DC	28	ス ストマイ	8	マ マイシン	8
D-D	28	スミチオン	16	マイマイペレット	20
NCS	24	スミレックス	4	マラソン	14
ア アクセル	20	スラゴ	20	モ モスピラン	18
アグリマイシン-100	10	ソ ソイリーン	24	ヤ 野菜ひろばN	18
アグレプト	8	タ ダイアジノン	14	ユ ユニフォーム	6
アグロスリン	16	ダイヤモンド	32	ラ ラッソー	32
旭D-D	28	ダコニール1000	10	ラリー	4
アタブロン	18	タチガレン	10	ル ルビゲン	4
アドマイヤー1	18	テ ディ・トラペックス	26	レ レーバス	10
アドマイヤー	18	デナポン5%ベイト	14	レンテミン	12
アフエット	4	テルスター	16	ロ ロブラール	4
アブロード	18	テルスタージェット	16		
アミスター20	6	デルフィン	18		
アリエッティ	10	テロン	28		
イ イエローリボンS	34	ト トアローCT	18		
硫黄粉剤	40	ドジョウピクリン	22		
インプレッションクリア	12	トップジンM	4		
エ エキガゾール	34	トリフミン	4		
エコショット	12	トルネードエース	20		
エコホープDJ	12	トレファノサイド	30		
エルサン	14	トレボン	16		
オ オラクル	6	ドロクロール	22		
オルトラン	14	ナ ナイスカップル	8		
オンコル	14	ナイスパートナー	18		
カ ガードベイトA	18	ナブ	30		
ガスタード	26	ネ 粘着くん	20		
カスミンボルドー	6	ハ バシタック	4		
ガゼット	14	バスアミド	26		
カップーシン	6	バスタ	30		
カリグリーン	10	ヒ ヒトマイシンS	8		
キ キルパー	26	フ プリグロックSL	32		
ク クレマート	30	ファイントリムDF	20		
クレマートU	30	ブリザード	8		
クロピク80	22	プレバソン	20		
クロルピクリン	22	プレビクールN	8		
コ コルト	18	フロンサイド	8		
コンタクト	34	ヘ ベジホン	16		
サ サイハロン	16	ベストガード	18		
ザクサ	30	ベトファイター	8		
サルバトーレME	4	ベネビアOD	20		
ザンプロDM	10	ベルコート	10		
サンヨール	10	ベンレート	4		
シ ジェイエース	14	ホ ホープスター	6		
ス スターナ	8	ポリオキシシンAL	6		
ストロビー	4	ホワイトリボン	34		

MEMO

Horizontal lines for writing a memo.

